

子どもを外で遊ばせたい

放射能を気にせず、屋外で思い切り、子どもを遊ばせたい。そんな保護者のねがいに応え、福島第一原発事故以降、福島県やその近隣県の子どもたちを受け入れ、自然体験活動を行ってきた108の「保養団体」と利用者らが「保養プログラム」に公的支援を行うよう、文部科学省などに申し入れた。



保養ってなに？

放射能のできるだけ低い地域で思い切り外遊びをし、身体をリフレッシュさせるとともに、「不安」のない場所で過ごすことで心もリフレッシュしてもらうための活動です。高槻でも毎年、福島子ども達を迎える「保養プログラム」が行われています。

たかつき保養キャンプ・プロジェクトは、資金カンパと、ボランティア参加を呼びかけています。

連絡先は Tel:080-5638-4638

Mail:hoyou_takatuki@yahoo.co.jp です。あなたも参加または協力して下さい。

第5回 福島原発事故の被災地域に住む子どもたちのための
たかつき保養キャンプ
期間：2017年7月29日(土)～8月4日(金)
宿泊場所：学校法人 行信教校
大阪府高槻市東五百住町3-4-17
受入対象：福島原発事故の被災地域に住む子ども(幼児～中学生)
受入人数：約15名・保護者若干名
主催 たかつき保養キャンプ・プロジェクト



チェルノブイリでは子どもの健康を守るために国家が保養プログラムを進めていますが、日本では事故から7年目を迎えてもなお、民間のボランティアに依存している状態です。年間にのべ9000人以上が参加していますが、希望の7割程度しか受け入れられていません。資金も人材も不足しています。「原発事故子ども・被災者支援法」に基づき、「保養」を国の制度に位置付け、当面は民間団体が実施している保養プログラムを公的支援することが求められているのです。